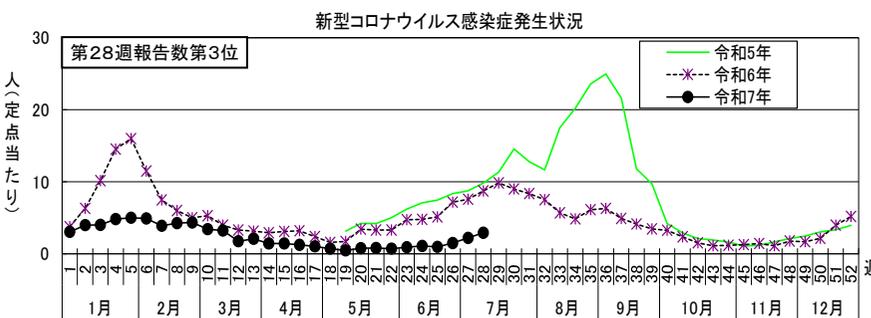
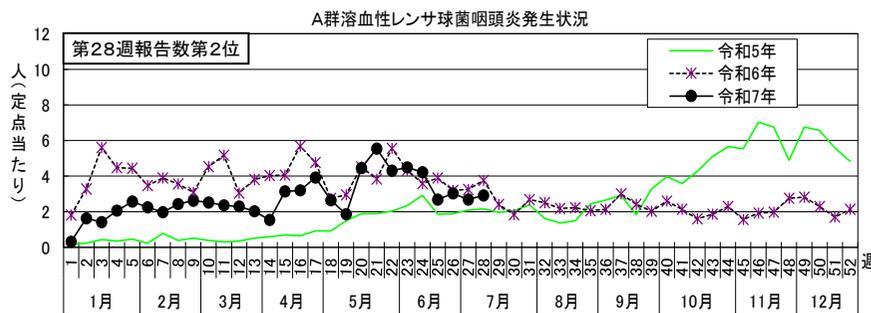
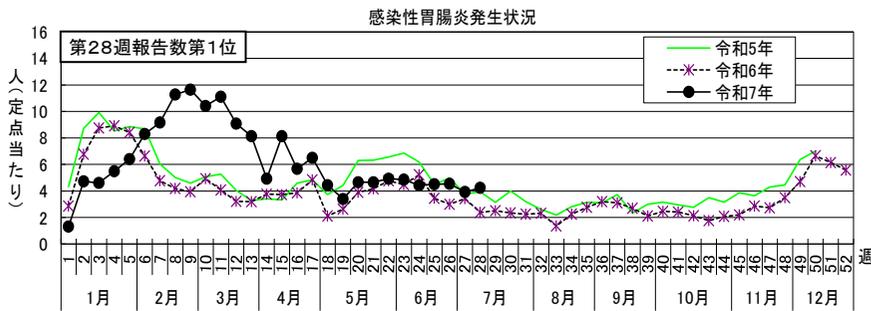


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年7月7日（月）～令和7年7月13日（日）〔令和7年第28週〕の感染症発生状況

第28週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 新型コロナウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は4.24人と前週（3.92人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.92人と前週（2.68人）から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。
 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は2.90人と前週（2.20人）から増加しました。

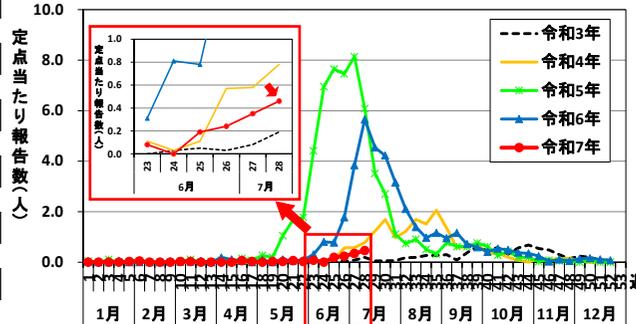


夏季に流行する感染症～ヘルパンギーナ～

ヘルパンギーナは夏季に乳児を中心に流行する感染症で、手足口病と同様、主にエンテロウイルス属のウイルスを原因とする疾患です。今年は6月以降報告数が徐々に増加しており、川崎市における令和7年第28週（7月7日～13日）の定点当たり報告数は0.46人となりました。

ヘルパンギーナの主な症状は、突然の高熱（38～40℃程度）や咽頭痛、口腔内の水疱や潰瘍等であり、予後は比較的良好ですが、まれに重症化する場合があります。飛沫感染や接触感染で広がるため、手洗い等を徹底し、小児が集団で過ごす保育園等では、タオルやおもちゃの共用を避けましょう。また、発症後2～4週間は便から原因ウイルスが排泄されるため、おむつ交換後の排泄物を適切に処理することも重要です。

川崎市におけるヘルパンギーナ発生状況（5年間）



ヘルパンギーナとは？

【感染経路】

飛沫感染、接触感染、糞口感染

【潜伏期間】

2～4日

【症状】

突然の発熱、咽頭痛、口腔内に水疱や白い潰瘍等
 ※発熱は1～3日程度で、ほとんどは予後良好ですが、まれに髄膜炎や心筋炎、脳炎等を合併することもあります。

【予防対策】

タオルやおもちゃの共用は避ける。

おむつ交換の際には排泄物を適切に処理する。



流水と石けんで十分に手を洗う。

